

ISSB のアジェンダの優先度に関する市中協議に意見提出

日本損害保険協会(会長:新納 啓介)は、国際サステナビリティ基準審議会(ISSB)(※1)が5月4日から9月1日にかけて実施した、アジェンダの優先度に関する市中協議に対して意見を提出しました。

1. 市中協議の概要

- ISSB は、IFRS S1 基準「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的な要求事項」および S2 基準「気候関連開示」(ともに2023年6月に公表)の導入を含む、基盤となる作業にリソースを割いたうえで、2024年からの2年間に新規プロジェクトに取り組むことを検討している。
- 今回の市中協議では、新規プロジェクトについて主に以下の観点から意見が募集された。
 - 活動の戦略的方向性およびバランス
 - ISSB の作業計画に追加する可能性があるサステナビリティ報告事項の評価規準
 - リサーチ・基準設定プロジェクト案の優先順位およびプロジェクトの進め方
 - 4点のリサーチプロジェクト案の優先順位(「生物多様性、生態系および生態系サービス」、「人的資本」、「人権」、「報告における統合」)

2. 損保協会意見の概要

- 市中協議文書で提示された活動のうち、ISSB 基準(S1 基準および S2 基準)の導入支援の優先度が最も高い。ISSB は S1 基準・S2 基準が適切に実施されるように注力すべきである。別の活動にリソースを割くことにより、S1 基準・S2 基準の実施がおろそかになることが懸念される。
- 追加の可能性のある新たなリサーチ・基準設定プロジェクトについては、ISSB は、単一のプロジェクトに優先的に取り組むべきである。そのなかで、サステナビリティ関連財務開示と財務諸表との間のつながりを促進することは重要だと考えられるため、「報告における統合」を優先したほうが良い。

当協会は、国際的なサステナビリティ開示を巡る議論に積極的に参加しており、今後も市中協議等に際して本邦業界の意見を表明していきます。

(※1) 国際サステナビリティ基準審議会(ISSB)

ISSB は、資本市場向けのサステナビリティ開示の包括的なグローバルベースラインの開発を目的として、国際会計基準(IFRS)を策定する IFRS 財団の下に設立された、基準設定主体である。

質問（仮訳）	損保協会意見	損保協会意見（英文）
質問 1 - ISSB の活動の戦略的方向性およびバランス	-	-
<p>(a) 優先度の最も高いものから最も低いものの順に、次の活動をどのように順位付けするか。</p> <p>(i) 新たなリサーチおよび基準設定のプロジェクトの開始</p> <p>(ii) ISSB 基準（IFRS S1 基準および S2 基準）の導入（implementation）の支援</p> <p>(iii) ISSB 基準の的を絞った拡充（enhancements）のリサーチ</p> <p>(iv) サステナビリティ会計基準審議会（SASB）の基準（SASB）スタンダードの向上（enhancing）</p>	<p>1. (ii) ISSB 基準（IFRS S1 基準および S2 基準）の導入（implementation）の支援</p> <p>2. (i) 新たなリサーチおよび基準設定のプロジェクトの開始</p> <p>3. (iii) ISSB 基準の的を絞った拡充（enhancements）のリサーチ</p> <p>4. (iv) サステナビリティ会計基準審議会（SASB）の基準（SASB）スタンダードの向上（enhancing）</p>	<p>1. (ii) supporting the implementation of ISSB Standards IFRS S1 and IFRS S2</p> <p>2. (i) beginning new research and standard-setting projects</p> <p>3. (iii) researching targeted enhancements to the ISSB Standards</p> <p>4. (iv) enhancing the Sustainability Accounting Standards Board (SASB) Standards</p>
<p>(b) 順位付けした順番の理由を説明し、ISSB が各活動の中で優先すべき作業の種類を特定されたい。</p>	<p>ISSB は S1 基準および S2 基準が適切に実施されるように注力すべきである。別の活動にリソースを割くことによって、S1 基準および S2 基準の実施がおろそかになってしまうことに懸念を覚える。</p> <p>(i)については、サステナビリティ関連財務開示と財務諸表との間のつながりを促進することは重要だと考えられるため「報告における統合」を優先的に対応したほうが良いと考える。それ以外のプロジェクトについては、S1 基準および S2 基準の対応が完全ではないなかで開示のスコープをいたずらに増やすことに繋がり、企業の負担が増える一方で、その情報を必要とする一部の投資家のみ</p>	<p>The ISSB should prioritize implementation of S1 and S2. We are concerned that, by allocating resources to other activities, the ISSB might fail to ensure proper implementation of S1 and S2.</p> <p>Regarding (i), we believe that "Integration in reporting" should be prioritized, as it is considered important to facilitate connectivity between sustainability-related financial disclosures and financial statements. The other projects included in (i) are unnecessary at this time because they will unnecessarily increase the scope of disclosures (under the situation where S1 and S2 are yet to be fully addressed), which will increase the burden on companies and benefit only some investors who need specific information.</p>

	に資することになるため、現時点では対応不要と考える。	
(c) ISSB の作業に含めるべき他の活動はあるか。ある場合、それらの活動について記述し、それらが必要である理由を説明されたい。	ISSB の作業に含めるべき他の活動はない。上記に記載したとおり、ISSB は S1 基準および S2 基準が適切に実施されるように注力すべきである。	No other activities should be included within the scope. As noted above, the ISSB should focus on ensuring that S1 and S2 are properly implemented.
質問 3 - ISSB の作業計画に追加する可能性がある新たなリサーチおよび基準設定のプロジェクト	-	-
(a) 新たな 2 年間の作業計画において新たなプロジェクトに関する ISSB のキャパシティが限定的であることを考慮に入れて、ISSB は集中的に取り組む単一のプロジェクトを優先し、そこで大きく進捗するようにすべきか、それとも ISSB は複数のプロジェクトに関して作業し、各々において少しずつ (incremental) 進捗するようにすべきか。 (i) 単一のプロジェクトとする場合、どれを優先すべきか。付録 A の 4 つのプロジェクト案から選ぶかまたは他のプロジェクトを提案してもよい。 (ii) 複数のプロジェクトとする場合、どのプロジェクトを優先すべきか、また、最も高いものから最も低いものの順に、相対的な優先度はどのようなものか。付録 A の 4 つのプロジェクト案から選ぶかまたは他のプロジェクトを提案してもよい。	単一のプロジェクトを優先すべきだと考える。 そのなかで、サステナビリティ関連財務開示と財務諸表との間のつながりを促進することは重要だと考えられるため「報告における統合」を優先したほうが良いと考える。 それ以外のプロジェクトについては、S1 基準および S2 基準の対応が完全ではないなかで開示のスコープをいたずらに増やすことに繋がり、企業の負担が増える一方で、その情報を必要とする一部の投資家のみが資することになるため、現時点では対応不要と考える。	We believe that a single project should be prioritized. Among them, we believe that priority should be given to "Integration in reporting" because it is considered important to facilitate connectivity between sustainability-related financial disclosures and financial statements. Other projects are unnecessary at this time because they will unnecessarily increase the scope of disclosures (under the situation where S1 and S2 are yet to be fully addressed), which will increase the burden on companies and benefit only some investors who need specific information.
質問 7 - ISSB の作業計画に追加する可能性がある新たなリサーチおよび基準設定のプロジェクト：報告における統合	-	-

<p>(a) 報告における統合プロジェクトは、ISSB のリソースを集中的に (intensive) 使用する可能性がある。これは、トピック別に開発されている基準が開発されるペースを鈍らせる可能性があることを意味するが、一方で、IFRS 財団の一連の資料の価値全体を実現するのに役立つ可能性がある。ISSB の新たな 2 年間の作業計画の一部として、3 つのサステナビリティ関連トピック (生物多様性、生態系および生態系サービス、人的資本ならびに人権についてのプロジェクト案) との関連で、報告における統合プロジェクトを進めることについて、どのように優先順位を付けるか。</p>	<p>サステナビリティ関連財務開示と財務諸表との間のつながりを促進することは重要だと考えられるため、新たなりサーチおよび基準設定のプロジェクトを開始する場合は、「報告における統合」を優先したほうが良いと考える。それ以外のプロジェクトについては、S1 基準および S2 基準の対応が完全ではないなかで開示のスコープをいわずらに増やすことに繋がり、企業の負担が増える一方で、その情報を必要とする一部の投資家のみが資することになるため、現時点では対応不要と考える。</p>	<p>Facilitating connectivity between sustainability-related financial disclosures and financial statements is considered important, and therefore, "Integration in reporting" should be prioritized when initiating new research and standard-setting projects. Other projects are unnecessary at this time because they will unnecessarily increase the scope of disclosures (under the situation where S1 and S2 are yet to be fully addressed), which will increase the burden on companies and benefit only some investors who need specific information.</p>
<p>(b) 報告における統合プロジェクトを優先事項として検討すべきと考える場合、必要となる調整の努力を考慮したときに、IASB との正式な共同プロジェクトとして進めるべきと考えるか、それとも ISSB のプロジェクト (正式な共同プロジェクトとしなくとも、依然として必要に応じて IASB からインプットを活用できる。) として進めるべきと考えるか。</p> <p>(i) 正式な共同プロジェクトを選好する場合、これをどのように実施すべきと考えるのかおよびその理由を説明されたい。</p> <p>(ii) ISSB のプロジェクトを選好する場合、これをどのように実施すべきと考えるのかおよびその理由を説明されたい。</p>	<p>(b) (ii) 正式な共同プロジェクトとしなくとも、IASB から必要に応じて適切なインプットを得ることが確保できるのであれば、議論の迅速性や意見集約のしやすさを鑑み、ISSB のプロジェクトとして進めることが望ましいと考える。</p>	<p>(ii) As long as the integration in reporting project could still draw on input from the IASB as needed without forming a formal joint project, we believe it is desirable that the project should be pursued as an ISSB project, considering the promptness of discussion and ease of opinion consolidation/adjustment.</p>

<p>(c) 報告における統合に関するプロジェクトを進めるにあたり、ISSB は次のものを基礎としたり、これらから諸概念を取り入れたりすべきと考えるか。</p> <p>(i)IASB の公開草案「経営者による説明」。賛成の場合、ISSB がその作業に取り入れるべきだと考える具体的な概念を記述されたい。反対の場合、その理由を説明されたい。</p> <p>(ii)「統合報告フレームワーク」。賛成の場合、ISSB がその作業に取り入れるべきだと考える具体的な概念を記述されたい。反対の場合、その理由を説明されたい。</p> <p>(iii)その他の情報源。賛成の場合、ISSB がその作業に取り入れるべきだと考える情報源および具体的な概念を記述されたい。</p>	<p>(c) (i) 「経営者の説明」については、あくまでもボランティアベースでの提出が基本であるべきところ、各社からの提出を事実上強制する流れに誘導してしまう懸念があることから反対する。経営者の説明有無は、個社の判断に委ねるべき事案である。</p>	<p>(i) We do not agree that the ISSB should build on and incorporate concepts from the "Management Commentary", because it may effectively force each company to submit the information, which is contrary to the basic principle of voluntary submission. Whether or not to provide management commentary should be left to the judgment of individual companies.</p>
--	---	--